

「ともに!チーム長町プロジェクト」から考える

「当たり前」のレベルを上げる

あいさつは 立ち止まらなくてもできる

コミュニケーションの原点

長町中学校の一学期後半の生活が本格的に始まっています。学校生活のリズムは取り戻せましたか。皆さんが心身共に健康で、笑顔ある生活である事が望まれます。

さて、先日、長町中学校区の4小学校と、「モーニングフレッシュプロジェクト」が実施されました。多くの生徒がこの活動に参加してくれた事をうれしく思います。小学生と一緒に、「あいさつ運動」をするこの活動に触れ、考える事が多くありました。

まず、皆さんのあいさつ運動に対して、地域の方々がとても喜んでくれていました。若い世代の元気のよい呼び掛けで、地域の方々は「とても元気が出る。中学生はやっぱりすばらしいね。」と話しかけてくれました。そして、小学生と一緒に活動することで、中学校に対する不安が少しでも解消され、皆さんのような活動や人柄にあこがれを持つという事は、とても意義があります。実際に「自分も中学校に入ったら、同じような活動をしたい。」と話してくれる小学生もいます。

そして、大切なのは、あいさつは、人の気持ちを変える力を持っているという事です。何気ない「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」等のあいさつは、人を明るい気持ちにさせる力があると感じます。私は、いつも校庭を通りながら出勤しますが、朝練習をしている生徒達が、とても明るく大きな声であいさつしてくれます。すると私自身も「今日も頑張ろう」と気持ちが晴れやかになります。部活動の生徒達のあいさつは、放課後の活動を見学に行っても、同じです。体育館に見学に行くと、「校長先生、どうぞ」と、わざわざパイプ椅子を差し出してくれる生徒達もいます。とてもうれしい気持ちになります。

あいさつを交わす事は、コミュニケーションの基本です。立ち止まらなくてもできる事です。それだけで人の気持ちが前向きに、そして明るく変わる事があります。一言だけで、明るい気持ちになるのであれば、いつでも、どんな機会にでも、あいさつを交わすという事は大切なのだと思います。

今年の夏の同窓会で、私の教え子達が、「社会に出て大切な事は、まずは、あいさつができる人間であるかどうかです。その基本から教えなくてはいけない場合もある。だから中学校時代のうちに、その大切さを教えてください。」と、力説していました。同時にこんな事も話してくれました。「こんにちはとありがとうは違いますよ。ありがとうは、本当にその気持ちがないと口から出ない言葉で、立ち止まらなくてもできるあいさつとは違って、もう少しレベルの高いやりとりです。」本当にそう思います。

今の皆さんに大切なのは、これまでのすばらしいあいさつを継続しながら、学校や地域の中で、**「自ら進んであいさつする」場面を意識してみる事かもしれませんね。昇降口に「先にするのが長中ルール」と掲示してあるのを見たことがありますか。まずは進んで「おはようございます」「こんにちは」と口に出してみましょう。**一人一人が成長していくためには、当たり前と思われる事のレベルを少しずつ上げていく事なのかもしれません。そうするうちに自然に、他者に「ありがとう」という言葉が出てくるかもしれませんね。